



# さくらんぼだより

2月号

平成30年2月1日

社会福祉法人 北杜福祉会 西多賀チェリー保育園

## 子どもの育つ力を信じて “家庭と園で共に子育てを”

寒さもひとしお厳しくなっていますが冷たい風もなんのその、西多賀チェリー保育園の子ども達はやっぱり元気な“風の子”。防寒着ですっぽり寒さ対策をすると、早速鬼ごっこなどをして走りまわる子どもたちです。園庭の傍らではポツリポツリ咲いている真っ赤なサザンカが子ども達を応援しているようです。

川は寒さで凍っていることが多くなりましたが、子ども達は“氷だ～！”と大はしゃぎ…。手の中でだんだん解けていく氷、そして大きく割れた氷を通して見える周りの景色等々、子どもたちにとっては不思議な世界がいっぱいです。

自然いっぱいの園庭は子どもたち自身がヒヤッとすることもあり、見ていてハラハラドキドキしてしまうことがたくさんあります。しかし、様々なことに触れながら体験できる園庭は子どもたちの運動力を養い自分の身体をコントロールする力をも培ってくれていると思います。また、子どもたちの中に芽生えてきている小さな小さな科学の心をくすぐる絶好の遊び場にもなっていると思います。

1月は保護者の方々のご協力の下、3歳児クラスから5歳児クラスまでの懇談会が行われました。

この1年間、子どもと真剣に向き合い、成長した姿と一緒に喜び合ったり、また、仕事に追われながらの日々、思うようにいかなかった子育ての大変さなども、お一人お一人語り合えることが出来た懇談会ではなかったかと思えます。

それぞれのクラスでは、就学、進級に向けての話もあり、保護者の方々にとってはまだまだ不安なところもあるように見受けられました。子どもたちにしても、いろんな思いの中で日々過ごしてきていたと思いますが、それでも、小さい子へのいたわり、周りへの気遣い、そして、何事もあきらめず頑張ろうとする心などが育ってきたように感じられます。集団の力でもありますが、何より、おとうさん、おかあさんたち家族の温かな愛情と見守りがあればこそ、培われてきたものだと思います。

これからも、子どもたちの持っている育つ力を信じて、家庭と園とが共に協力し合いながら、歩んでいきたいと思えます。



2018・2・1

<園長 中館 和子>

## お知らせ



### <おにぎりパーティー>

昨年7月、梅を収穫したスイミー組の子どもたちが作っていた梅干を使って、3歳以上児のクラスの子どもたちと、おにぎりパーティーをやりませう。どろ団子つくりはとてもし上手な子どもたちですが、本物のおにぎりはうまくにぎれるかどうか…子ども達は今から楽しみにしています。

日時 2月23日(金)

\* 三角巾、エプロンを忘れないで持ってきてください。

### ☆ 0、1、2歳児クラス懇談会

1月は3歳児から5歳児クラスまでの懇談会が行われました。

今月は、0歳児クラスから2歳児クラスまでの懇談会を行います。お子さんの1年間の姿を振り返りながら、成長を共に喜び合い、また、進級に向けての話などを語り合いたと思います。

是非、ご出席下さいますようお願い致します。

## おねがい

### <夕方のお迎えについて>

迎えの時間が夕方の6時に間に合っても、そこからの時間が長くなる方が見受けられます。駐車場が大変込み合う時間でもあります。また、暗い中で、子ども同士がふざけあつてけがをすることもあります。なるべく速やかに帰られるようご協力下さい。



## 行事予定

2月		行事
日	曜日	
1	木	2歳児懇談会
2	金	豆まき会
6	火	発育測定
9	金	1歳児懇談会
15	木	園外保育(スイミー科学館)
16	金	避難訓練
20	火	誕生会
22	木	0歳児懇談会
23	金	おにぎりパーティー

3月		行事
日	曜日	
2	金	ひなまつり会
6	火	発育測定
9	金	一年生になるお祝い会
10	土	避難訓練・新入園児説明会
20	火	誕生会
24	土	卒園式
10	土	避難訓練・新入園児説明会
20	火	誕生会
24	土	卒園式
27	火	修了式



1月から各クラスで懇談会が開かれていますが、春の懇談会の時には、多くの保護者の方々が環境の大きな変化に不安と戸惑いを抱えてしまっている状態でした。しかし、今回は、おかあさんたちの気持ちの中に余裕が見られ、子どもたちの成長も感じ取っているようでした。

そうした中で、いつまでも甘えてばかりいる、あるいは甘やかしてしまっている、しつけもしなければ・・・、と思っているのどうすればいいのかわからない、などの声もありました。おとうさん、おかあさんにしてみれば当然の悩みかもしれませんね。

でも、子どもたちは、年齢にもよりますが、自分のことは自分でする、ということがどの子どももできています。

お家で、甘えてやらないのは当然の事、自分の意志に関わらず親の都合で、毎日保育園に連れてこられて、ほとんどの子どもたちは、10時間以上も集団の中で過ごしています。元気に遊んでいる姿を見ると、ストレスなんて感じることなく過ごしていると思いがちになりますが、子ども集団の中では自分の思い通りになることは殆どなく、我慢したり、話し合いの中で折り合いをつけて子どもなりに懸命に頑張って一日を過ごしています。でも、気持ちの均衡を保てなくなると、大泣きしたり、友達とトラブルを起こしたり、いろいろな形で、サインを出してくれます。

私達職員は、そのサインを見逃すことのないよう、そして、子ども達が楽しく安心して一日を過ごせるよう見守りながら保育をしています。

子ども達は、心が満たされることで、様々なことに挑戦してみようとする気持ちが湧いてきます。ご家庭においてもまずは子どもの話をしっかり聴く事、そして、子どもの気持ちに寄り添って、今、何を求めているのか察してあげること、そこを飛び越えて、躰にばかり捉われると子どもはいつしか心を閉ざしてしまいがちになり、親の言う事にも耳をかさなくなってくるのではないかと思います。愛情いっぱいの中で、いっぱい甘えさせてもらい、しっかり話を聴いてもらっている子どもは、自分の足でいつしかしっかり歩むことができると思っています。まずは、子どもを信じていきたいですね。



母と子の  
絵本棚



「おふろだいすき」 出版社：福音館  
まつおか きょうこ さく はやし あきこ え

次々お風呂の中からでてくる動物たち。一人でお風呂に入るようになった男の子の空想の世界が繰り広げられ、自分の家のお風呂でもこんなことがあったら楽しいだろうなと子どもの夢を膨らませてくれる1冊です。お風呂の前のひととき、お子さんと楽しんで下さい。

「だいくとおにろく」 出版社：福音館  
まつい ただし 再話 あかば すえきち 画



村人に頼まれ川に橋を架けにきてだいく。あまりの激流に圧倒され考えこんでいると川の中からオニが現れ・・・だいくとオニのユーモラスなやりとりが楽しい絵本です。

子どもの心のよりどころ

子どもは常に不安に出会う存在であるという事が、ある保育雑誌の中にありました。確かに乳幼児期は小さくて弱い存在で、いつも不安や恐れにさらされていますね。例えば、赤ちゃんは少しの間でも母親が離れただけで大きな不安を感じ大泣きします。大きな音や暗いところ等も不安がいっぱいになります。身近な大人がその都度寄り添い応えてあげることで、安心感へと変わっていきます。歩くようになって、転んで痛い目にあったり、大きくなって色々な遊びや運動に挑戦して失敗をして不安になったり、友だちと喧嘩をして不安になったり・・・。年齢によって、不安や怖さを感じたりする度合いは違いますが、でも、その都度気持ちを受け止めてもらって気持ちの立て直しをする、こうした体験を重ねる中で子ども達は自分の心の拠り所を見つけていっているのではないかと思います。ありのままの自分を無条件に受け入れてもらえる安心感が、やがて自己肯定感にも繋がっていくのではないかと思います。

わらべうたであそぼう

どんぶかっか

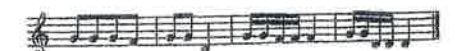
どんぶかっか すっかっか  
あったまって あがれ  
かわらの どじょうが  
こがいを うんで あずきか まめか  
つづらのこ つづらのこ



どんぶかっか、すっかっか、 あったまって あがれ、



かわらの どじょうが、 こがいを うんで、



あずきか まめか、 つづらのこ、 つづらのこ、